

雪花菜（おから）くらぶと社会福祉法人一粒との、地域福祉を支える連携事業
サービス付き高齢者住宅「風の街」の取り組み

最後まで人生の主役として生きるために地域福祉と、 食をとおして生活の質を支えるワーカーズ

施設で安全ではなく、
まち中の地域のきずなで
安心を

鴻巣市吹上富士見、吹上団地の中にある元スーパー・マーケットの跡地に 2014 年 4 月「風の街」が誕生しました。

社会福祉法人一粒の理事長関博人氏は、埼玉県住宅供給公社のコンペに「吹上富士見地域共生プラザ構想」を応募し採用されました。吹上団地の住民の 80% が 60 歳以上と高齢化の進行が著しく、ショッピングセンターの撤退による買い物困難者をはじめとした介護を必要とする人々が確実に増えている地域です。住民の自助努力だけでは難しい問題に対し、住民同士の共生社会を築く拠点となる場をつくるという「風の街」の構想でした。

「高齢になつたら施設入居で安全を得るだけでなく、それまでの暮らしを変えずに、地域の人々の支援を受けながらまち中でふつうの暮らしを送ることができる仕組みが必要ではないか」と一粒の関理事長は言います。

福祉の里で
誰もが役割と仕事
を担う

社会福祉法人一粒は、障がい者福祉の里づくりを 2000 年に発足し、「入所施設ではなく家をつくろう。ここに暮らす誰もが仕事と役割を」をテーマにした施設を吹上に作りました。障がいがあつても人として役割や仕事を担い、農業など多様な作業に障がい者本人がかかわりながら地域の人々との関係性を紡いできました。吹上団地にも、遠くに高齢者施設入所があるのでなく、まちの中で地域の人々の絆を再生し、支えあうことにより誰もが生きられる社会づくりにつなげようという構想があったのです。



関理事長(中央)と雪花菜くらぶのメンバー

雪花菜くらぶと 社会福祉法人一粒 の出会い

地域に細々とながらお弁当の提供を行っていた雪花菜くらぶは、2011 年 3 月に起きた震災の復興支援に東北に行き、被災した人々に手作りのお弁当や、温かい汁物を提供しました。機材をたくさん積んで被災地に向かう雪花菜くらぶのサポートをかって出たのが一粒でした。先の見えない不安な生活を余儀なくされていた被災地の人々が、雪花菜くらぶの提供する食事の温かさに感激し、元気が出たと聞き、お互いに食の大切さに改めて気づきました。「風の街」の構想の中でも連携していくことが話し合われました。

おいしい食事は人の心を優しくし、働く喜び、生きる喜びにつながります。特に高齢期の正しい食事は生活の質を上げることにつながります。



野菜たっぷりのメニュー

雪花菜くらぶ日々奮闘

雪花菜の朝は早いです。19 歳のみさちゃんも、私が 6 時に入ると朝の掃除など調理前の準備を終わらせています。

みさちゃんはメンバーの親戚のお子さんで、高校を卒業してしばらく家にいました。面接をした時は、表情も無いお嬢さんでした。メンバーの中には自分たちには荷が重いと感じる仲間もいました。けれど私は、自分がヘルパー講座の実習先で見た殺伐とした施設の内情とは違う、仲間と助け合いながら心のこもった仕事ができるワーカーズなら、一緒にできるはずだと思ったのです。

最初は約束の時間が守れなかつたり、自分で考えることをしなかつたり、包丁の持ち方も一から教えないといけなかつたりしました。けれども人の言うことを聞く態度が素直でよく吸収していました。「もうみさちゃんは何でもできるから頼んでいいよ」ときっぱり宣言した頃から本人が変わり、周囲もその成長に驚くようになったと思います。



厨房にて

今では雪花菜の中で一番の働き者で、早朝や遅い時間などに入ってくれて、一人で作業ができます。半年前とは別人のようなみさちゃんを見ると、幸せな気持ちになります。

今雪花菜が行っている、利用者さんの体を気遣いながらおいしい食事を作るこだわりは、利益を追求する企業ではできないと感じます。1 日の塩分量 6 g を目標にした食事をおいしく作るには、良い食材を使い手間をかけて調理する必要があるのです。

けれど利益は追求しなくとも、働くに見合った人件費は確保しなければなりません。新しい事業は始まってまだ 4 か月しかたっていません。今の大変さが希望へと変わる日が来ることを信じて、仲間と一緒にいこうと思います。

(岩澤ハル)

「風の街」の機能

●サービス付き高齢者住宅

そこに暮らす方が最後まで安心した暮らしができるようにサポートを用意しつつ、入居者の自立を損なわないように心がけています。安否確認、緊急時の対応、介護保険はもちろんのこと、保険外のサービスの用意もされています。



賃貸住宅入口と
キッチン

●デイサービス

デイでの過ごし方は利用者が主役です。生きがいを見つけられるメニューを取りそろえ、その日の過ごし方は、利用者自ら選ぶことになっていて、利用者目線のスタッフの工夫が光ります。入浴設備やフロアーにも本人を主役とする様々な工夫があります。



デイにはゲーム感覚で利用者のやる気を誘う工夫が

●生活相談センター

●家庭保育室

などの施設も備えています。